

核兵器禁止条約採択は画期的。参加、批准の広がり、平和の力になる

市長も核兵器禁止条約採択を評価。平和首長会議では日本政府に参加、批准を要請

私は9月26日、市議会で一般質問を行いました。とりあげたのは核兵器禁止条約、災害対策など3つです。今号と次号に分けて質問の概要をお知らせします。

【橋爪】今年の7月7日、国連会議で採択された核兵器禁止条約は今年度、世界で最高の政治文書だ。また、広島、長崎の平和宣言もすばらしい。市長はどう受け止めたか。

【村山市長】 当市が加盟する平和首長会議の国内加盟都市会議総会で、「核兵器廃絶に向けた取組の推進」を決議し、総理に要請した。要請文では「核兵器のない世界」の実現への第一歩であり、心から歓迎するとしているが、私も



思いを同じくしている。広島市及び長崎市で開催された平和祈念式典で両市長が行った平和宣言については、「核兵器のない世界」の実現に向けた、いずれも被爆地の自治体の首長でなければ発することのできない、切実な、また、力強いメッセージであり、大変重く受け止めている。

【橋爪】核兵器禁止条約が採択されたことを踏まえ、非核平和友好都市宣言自治体の首長として、その批准を政府に積極的に働きかけるべきだと思いませんか。

【村山市長】この度の要請文では、政府が本気となって核保有国と非核保有国の橋渡し役としての行動を起こすとともに、NPT等の体制下での核軍縮の議論に貢献し、同条約が実効性のあるものとなるよう、力を尽くすことを強く要請している。さらに、平和首長会議総会において、核兵器保有国を含む全ての国に対し、条約への加盟を要請し、条約の一日も早い発効を求める「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」を行った。改めて働き掛けを行うことは考えていない。

【橋爪】近年はいつどんな災害が起きるか分からない。百年の一度と言われる豪雨は毎年のようにある。それだけに当市に発生した災

害は、丁寧に総括し、課題を整理しておく必要がある。7月の水害はどう総括したか。

【市長】当市では、6月30日夜から雨が降り始め、7月1日、3日と昨年の7月下旬の大雨に迫る激しい降雨となった。

この降雨により、土砂災害の発生の危険性が高まったことや河川の水位が上昇したことに伴い、各種避難情報を適時に発表した。

避難情報の発表にあわせて、全体で45か所の指定避難所や指定緊急避難場所を開設し、最大181人の避難者を受け入れたほか、福祉避難所を47か所開設し、最大9人の要援者が避難された。指定避難所が学校施設であるところにあつては、児童・生徒や保護者への対応等を含めて、円滑に開設した。福祉避難所についても、個別避難計画に基づき、要支援者の個々の状況に即した対応が図られたものと認識している。

水害対策では課題もある

【橋爪】課題もあつたはずだ。例えば、大和地区の一部では避難情報で混乱が生じたと聞いている。また福祉避難所でも（受け入れ体制などで）課題があつたはずだ。こういうところはきちんと整理し



【オモダカ】オモダカ科の水生植物。漢字で「面高」と書きます。パラグライダーが着陸する田んぼで見つけました。田んぼでは雑草として扱われます。おせち料理に使われるクワイはオモダカの栽培変種です。

ておくことが重要だ。

避難スペースにおける洋式トイレ設置率は79%

【橋爪】高齢化が進む中で避難所のトイレのことが大きな問題の一つになってきている。避難スペースにおける洋式トイレ整備の現状と今後の対策について話したい。

【市長】現在、避難所として指定している129か所の施設のうち、126か所で洋式トイレが設置されているが、実際に避難場所として指定している避難スペース：例えば体育館などの中に洋式トイレがある指定避難所は102か所（79%）だ。残りの24か所については、避難所開設後、施設管理者と協議の上、施設内の洋式トイレを利用していただくことにしている。一方、施設に洋式トイレがない3か所の避難所については、市が備蓄している11基の洋式の仮設トイレを活用することとしている。短期的には、資機材の備蓄により対応するとともに、中長期的には、避難所として指定している施設の整備にあわせて、トイレの洋式化を図ってまいりたい。

はしづめ法一の活動レポート

No.1826 2017.10.1
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら


春よ来い

第四七四回

母の「勉強」

母の頭の中はいま、どんなふうになっているのでしょうか。突然、思いがけないことを言いだしたり、質問してきたりするので、面くらうことがあります。

先日の夜、テレビで『この声をきみに』という番組を放映しているときもそうでした。私は、この朗読をテーマにした番組を楽しみにしていて、この日も「がまくんとかえるくん」という絵本の朗読に聴き惚れていました。

そこへ母がいきなり、私に訊（き）いてきたのです。

「とちや、『くさかんむり』に西（にし）と書いてなんと読むが……」

急に訊かれたので、私は「なにね」と訊き返しました。すると、母は、テーブルの上で右手人指し指を使って、草冠（くさかんむり）を書き、「くさかんむりの下に西」という字を書いて何と読むがかてど」と言い直しました。

私は「茜（あかね）だよ」と答え、今度私の方から「茜がなしたてが」と訊きました。母は小さな声で、

「テレビに出てきたすけ……」

と応じました。たぶん、母は昼間の時間帯にテレビドラマでも観ていて、俳優の名前か何かが目に残ったのでしようね。

それで終わってれば、印象に残ることもなく忘れたのでしようが、母は続いて、「とちや、魚へんに京（きょう）」と書いてクジラか」

と訊いてきたのです。よく知っているもんだと感心しながらも、「なしたてが」と逆質問すると、

「うん、デイスリーブスでクイズしたけど……」と母は言いました。

なるほど、そういうことだったのか。これで読めました。前日、母はデイスリーブ

のお世話になっていきますので、そこで職員さんが魚へんの漢字を次々と出して「はい、何と読むか、わかる人いますか」といった調子で漢字の読み方の遊びをしたのでしようね、おそらく。

母のことですから、鯉（こい）とか鮎（あゆ）くらいのは字は読めたはずで。そこで鯨（くじら）もちゃんと読めて、ほめられたのだと思います。

ほめられていい気持ちも味わったものから、テレビを観ていても、ちよつとむずかしそうな漢字が出てくれば、覚えようということになったのでしよう。

それにしても、九三歳を過ぎても漢字を覚えようという意欲を持っているとはたいしたものですね。

この夜、母は、デイスリーブスでの他の遊びのことも話してくれました。グループで都道府県名を出し合う遊びです。母と私のやりとりを紹介しましょう。

「デイスリーブスでケンがでたがど」

「なにね、ケンて」

「うん、四角い紙、配らんで、一枚ずつ書いて、グループで県（けん）の名前書いて、なんだろかな、なんだろかな、そう言うって出すがど」

「なんだ、県の名前か」

「うん、うん、そいが……。グループで。とちや、九つあると言ったすけ、新潟県だろ、細長い山形県だろ、それに栃木県に茨城県もある。端っこの方には山口県もあるし……」

しゃべり続ける母の様子を見て家の者が、「ばあちゃん、また日本地図の勉強してんが。風呂に入んないや」と誘いました。それでも母のしゃべりはまだ続きました。母の漢字や地図の「勉強」はまだしばらく続きそうです。

町内会集会場の補助見直し来年度から実施へ

上越市は町内会集会場の新築・増改築・修繕補助、耐震診断・耐震補強工事への補助制度を見直し、来年4月からスタートさせることを明らかにしました。これは9月15日の総務常任委員会で、私の質問に担当課が答えたものです。

昨年度の取り組みの中では、新築件数が6件、増改築修繕が31件あったものの、耐震診断や耐震補強は申請がゼロでした。私から、「市は制度の見直しを検討する必要があるとしているが、どこで、どう直しているのか」と質問したのに対して、担当課長は、「見直しは町内会連絡協議会の正副会長さんの意見も聴きながら、共生まちづくり課だけでやっていきたい。限度額のあり方、補助率について検討していきたい」と答えました。

また、私は小中学校の児童生徒だけでなく、一般市民全体を対象とした平和への取り組みを強化すべきだとして、市役所幹部や議員は率先して平和の重要性について語ろうと呼びかけました。その際、ある新聞に掲載された俳人、金子兜太さんへのインタビュー記事の中で引用された田中角栄の「戦争を知っているやつが世の中の中心であるかぎり、日本は安全だ。戦争を知らないやつがでてきて、日本の中核になったとき、怖い」という言葉を引用しました。

平和事業の取組強化を

上越市では市内小中学校の児童生徒を対象に平和学習を行っています。15日の総務常任委員会で、「平和学習を中心に、より広く多様な取り組みが求められているが、どのようなことをやっているのか」との私の質問に担当課長は、「今年度から2か年計画で市内の全校を巡回する平和展を開始

している。1校あたり10日間開催している」と答えました。

また、私は小中学校の児童生徒だけでなく、一般市民全体を対象とした平和への取り組みを強化すべきだとして、市役所幹部や議員は率先して平和の重要性について語ろうと呼びかけました。その際、ある新聞に掲載された俳人、金子兜太さんへのインタビュー記事の中で引用された田中角栄の「戦争を知っているやつが世の中の中心であるかぎり、日本は安全だ。戦争を知らないやつがでてきて、日本の中核になったとき、怖い」という言葉を引用しました。

答弁に立った自治・市民環境部長は、「職員の中でも意識的に取り組んでいきたい」とのべました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月20日(水)	9月27日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.053	0.057
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.043	0.050